

男木島における近年の空き家改修事例にみるコウリキ

安田研究室 15_14675 森本 玄 (MORIMOTO, Gen)

1. 序 高松港からフェリーで40分ほどの距離に位置する瀬戸内海の男木島では、傾斜地に造成された石垣と住宅が密集する路地空間が独特な景観を形成している(図1)。人や物資の輸送にフェリーが利用され費用が嵩むことや、集落内では路地の幅が狭く自動車が通行できないことから資材の運搬が困難であり、男木島ではコウリキ¹⁾と呼ばれる伝統的な相互扶助の慣習²⁾により建築工事が行われてきた。高齢化が進む集落である一方、2014年から若い移住者が増加しており、彼らの多くは自ら空き家を改修し居住している。そこで、本研究では近年の空き家改修事例を対象にインタビュー調査を行い、島内の建設プロセスにおけるコウリキの実態と変容を明らかにする。

2. 対象事例およびインタビュー調査の概要 インタビュー調査の概要を表1、対象集落範囲を図2、対象事例の分布を図3に示す。Cは島の南東側の集落に位置しその他は南西側の集落に位置する。居住者の概要を表2、各事例のインタビューの概要を表3に示す。Hの居住者h, h'は入

居予定の空き家改修工事を、男木地区連合自治会長を務めるbに委託している。建物の概要及び改修内容を表4に示す。A, B, C, D, E, Gでは建物の一部もしくは全体の用途変更がなされた。そのうちC, D, Eでは母屋に住みながら敷地内にある納屋を店舗に改修しており、3章以降事例C, D, Eは納屋の改修のみを対象に分析を行う。

3. 建設プロセスにみるコウリキ

3-1. 設計・施工計画 建築士へ設計の委託をした事例は2件あった(図4)。Bでは設計だけでなく施工方法について綿密な計画が行われ、専門的知識の伝達が行われた。C, Dでインターネットから得た知識を元に構造の検討がなされたように、専門家や施工経験者が身近に居ない状況でも施工に関する専門的な情報を得ることが可能である。

3-2. 建築資材・工具の調達 図5に建築資材及び工具の調達先を示す。建設工事に必要な資材・工具等を取り扱う店舗は島内に存在しない。建築資材では8件全てで、工具では7件で、高松市内の特定のホームセンターが利用され



図1 男木島の概要 図注 基盤地図情報を用いて作成。統計情報は高松市登録人口による

所在	香川県高松市男木町
世帯数	107
人口	169人
面積	1.34km ²
平均年齢	61歳
最高標高	212.8m

表1 調査概要

実施期間	2018年12月5日～12月10日	対象件数	8件
実施方法	インタビューシートを用いて対象事例の居住者又は施工者にインタビュー調査を行った。可能な場合は建物内外の撮影を行った		
調査項目	2章 対象事例の概要	3章 建設プロセス	
	居住者・建物の基本情報 移住の経緯、改修の経緯 改修内容	設計、工具の調達方法 資材の調達方法 資材の運搬方法、施工者	

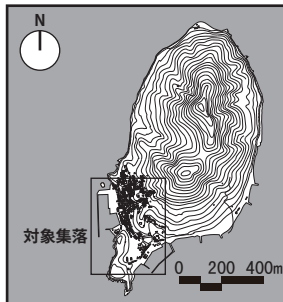


図2 対象集落範囲 図注 基盤地図情報より作成

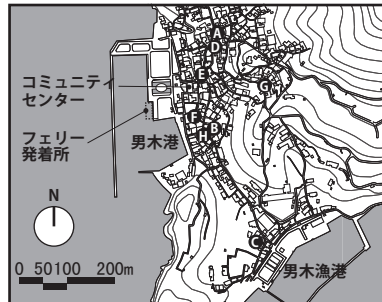


図3 対象事例分布

表2 居住者の概要

事例	居住者	性別	前住地	職業	勤務地
A	a ^{a1}	F	(島外在住)	施設運営	A
B	b	M	大阪府	会社経営 ITデザイナー	自宅 自宅
	b'	F			
C	c	M	大阪府	飲食業(自営業)	C
D	d	M	茨城県	飲食業(自営業)	E
	d'	F			
E	e	M	京都府	美容師(自営業)	D
	e'	F			
F	f	M	岡山県 兵庫県 ^{a2}	漁師, イラストレーター 施設従業員 ^{a3}	島外 B
	f'	F			
G	g	F	東京都	高松市職員 ^{a4}	G
H	h	M	(島外在住) ^{a5}	web エンジニア	-
	h'	F			

表3 インタビュー概要

事例	インタビュー	インタビュー日時
A	a	2018/12/05
B	b	2018/12/09
C	c	2018/12/05
D	d	2018/12/07
E	e	2018/12/08
F	f	2018/12/07
G	g	2018/12/10
H	h	2018/12/05

表2の注
*1 島外在住、定期的に男木島へ通う生活をしている。
*2 移住後に入籍
*3 事例Bの図書館に勤務
*4 店舗開業予定
*5 移住予定、現在島外在住

表4 建物概要と改修内容(2018年12月10日時点)

事例	建物概要			改修内容																			
	棟	主要用途	築年数	主構造	階数	工事の状態	増減築	断熱	屋根	外装	内装	床	構造	基礎	地盤	空調	水道	ガス	電気	簡易水洗化	浄化槽の設置	改修費	
A	母屋	宿泊所	100-110	木	2	改修済	減築	-	○	○	○	○	-	-	-	○	○	○	○	○ ^{a1}	x	-	
B	母屋	私立図書館	推定 90-100	木	2	改修済	増減築	○	○	○	○	○	○	○	○	○	x	○	-	-	-	x	-
C	母屋 納屋	住居 飲食店	不明	木	-	一部改修済	なし	x ^{a2}	x	-	○	○	x	x	x	-	-	-	-	x	x	-	
						改修済	増築	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
D	母屋 納屋	住居 飲食店	100	木	-	一部改修済	なし	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	-	
						改修済	増築	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
E	母屋 納屋	住居 美容所	推定 50 以上	木	-	一部改修済	なし	x	x	x	x	○	x	x	x	-	-	-	-	○	x	-	
						改修済	なし	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
F	母屋	住居	推定 70-80	木	2	一部改修済	なし	○	補修 ^{a3}	○	○	○	x	x	x	x	○	○	○	○	x	-	
G	母屋	店舗, 住居	推定 40 以上	木	-	工事中	なし	○	x	x	○	x	x	○	○	○	○	○	○	○	x	-	
H	母屋	住居	50	木	1	工事中	なし	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	○	○	(350) ^{a4}	

表注 改修費の単位は万円 *1 改修前から導入済み *2 気密改修がなされた *3 瓦の塗装 *4 予算

た。また、材木屋の利用は4件あり、全て工事に参加した宮大工または建築士からの紹介による。一般的に利用可能なホームセンターとは違い、協力者に建設業者が入ることによって利用が容易になっている。廃材の再利用が7件でみられた。島内の解体工事は島外の解体業者を介さず住民が行っており、生じた再利用可能な廃材は保管もしくは譲渡され建材や薪として利用される。廃材を資源として有効活用するという共通認識がみられた。7件で工具の借用がある。コンクリートミキサーやテーブル等大きな機材や足場に用いる単管は、共有物のように扱われており必要な時に貸し出されている。以上より、島外での資材・工具調達にはホームセンターの他に主に材木屋の利用があり、建設業者の協力により調達先の選択肢が増えている。

3-3. 資材の運搬 図6に資材の運搬方法を示す。通常本土から島への資材運搬はフェリーが利用されるが、Bでは島の漁師の協力により本土から男木島までの建築資材の輸送で主に漁船が使われた。H以外の7件において、島内のコミュニティセンター³⁾で有料で借りることのできるテラと呼ばれる農耕用運搬車が主要な運搬用機材として用いられた。C以外の7件の敷地は自動車アクセスできず、テラは集落内での資材の運搬に重要な役割を果たしているといえる。

3-4. 施工 施工関係者と施工協力者の参加経緯を図7に示す。島内の建設業者は大工1名である。8件中6件に

参加した島民nは過去に建設業に従事した経験をもつ漁師であり、E, Fにおいては廃材から足場を組み立てるなど豊富な技能を有していることがわかった。8件中4件に参加した建築士jはbと交友関係にある本土の建築士であり、Bへの参加をきっかけに島内の工事に参加するようになった。島民nと建築士jは事例間での施工に関する知識共有に大きく貢献している。Bで施工を経験したbはその後D, E, Hに参加し、Hでは施主から施工を委託され中心的役割を担っている。このように施工を経験した住民がのちの事例の協力者となっている。

4. 結 以上本研究では、男木島で近年行われた空き家改修事例を対象にインタビュー調査を行い、島内の建設プロセスにおけるコウリキの実態を明らかにした。かつてのコウリキは人や道具、資材や情報などの構成要素の関係が島内で完結していたが、近年の移住者らの流入をきっかけに島外へその範囲を広げ、独自の協力関係を築きつつあるなどの変容がみられた。

注
1) 公力、構力、合力など文献により表記が異なる。音はコウリョクとも。本研究では参考文献Aで扱われている表記に基づいてカタカナでコウリキとした。
2) 参考文献Bより、本研究ではコウリキを特定の作業や労働によらず必要ときに住民が協力し合う伝統的な相互扶助の慣習であると定義している。
3) 高松市役所市民政策局 男木コミュニティセンター(公民館)

参考文献
A) 男木島図書館：みんなでつくる、なんでもつくる。創作の秋、<https://ogijima-library.or.jp/2015/09/15/renove-8/> (2019年2月2日最終アクセス)
B) 中島正博：過疎高齢化する離島のまちづくりと芸術祭 - 瀬戸内・男木島の再生へ向けた住民の活動 -, 広島国際研究, pp.93-104, 2014.11

設計の委託	件数	0	8
島内	島民nから知識を得た	E	島民nの協力があり、作業の方法を教えてもらいつつ改修を進めた。
島外	島外の建築士から知識を得た	B	設計だけでなく施工方法について綿密な計画を行い、専門的知識を得た。
島外	インターネットから情報を得た	C	筋交いを入れるなどの構造補強の知識、設備工事の知識をインターネットから得た。

建築資材 ^{*1}	件数	0	8
HC ^{*2}	8	A B C D E F G H	島内
材木屋	4	A B F H	島内
畳屋	1	H	島内
ECサイト ^{*3}	3	A D E	島内
廃材利用	7	B C D E F G H	島内
工具			島外
HC	7	A B C D E F H	島外
ECサイト	2	C H	島外
借用	6	A B D E F G	島外

廃材利用	件数	0	8
E	空き家を解体した際に生じた廃材が保管してある場所があり、そこから材料を調達できる。		
借用	B	大きな機材や足場に用いる単管は、工事の現場へその都度貸し出されている。	
HC (ホームセンター)	C	材料の選定にはあまりこだわらず、市販の材料を使った。	
材木屋	B	工事に参加した宮大工、建築士からの紹介で材木屋からの木材を使用した。	
ECサイト	D	HCに無い物をECサイトで購入するが、離島であるため、配達に制限がある場合もある。	

本土から男木島	件数	0	8
フェリー	7	A C D E F G H	
漁船	1	B	
男木島内			
テラ	7	A B C D E F G	
人力	1	H	
島内	漁船	B	島の漁師の協力により本土から男木島まで主に漁船で建築資材を運んだ。
島内	テラ	D	島内のコミュニティセンターで有料で借りることができ、島内の主要な運搬方法である。
島外	フェリー	C	HCから購入した資材を運ぶ際にフェリーで島の港まで運んでくれるサービスがある。

図4 設計・施工計画の専門知識の情報源 図5 建築資材・工具調達先 図6 資材の運搬方法

2014	2015	2016	2017	2018	2019	施工協力者の参加経緯	島内	島外
A				2018年12月10日調査時点(以降は予定)		自身の計画を宮大工に相談し協力してもらった。電工工事はボランティアの資格保有者。	島民	a 宮大工 プラフィア 大工 電気 水道 ガス
B	1期工事	2期工事(屋根のみ)				建築士jによる設計と施工方法の綿密な計画がなされた。建築士jは途中から参加。インターネットを利用してボランティアを募った。	b c 島民 n	建築士j 建築士m 大学生 観光客 プラフィア 水道 電気
C						Bと同時に施工が行われ、互いに現場の様子を見に行っている。梁の施工時に島民の協力があった。	c 島民	水道 ガス
D						基本的に島民nの1人が手伝ってくれた。島下りの時には15人ほど集まった。	b d 島民 n 島民	ガス 空調 電気
E						建築士mは当時島内で調査活動をしていた。島民nによる廃材を利用した足場の組立てがあった。元左官屋の島民の協力がある。	b d e 島民 n 島民	建築士m
F	夫	妻				電工工事は島民の知人の資格保有者。島民lによる廃材を利用した足場の組立てがあった。	d f 島民 n	建築士j 電気 ガス
G	現在の住まい					主な作業は島民nと建築士jが担当し、Gは部分的な手伝いで施工に参加している。電工工事業者は建築士jの紹介による参加。	g 島民 n	建築士j 凡例 外注工事 協力者 電気 空調
H						施主がbへ改修を委託し、主にbと島民n、建築士jにより施工が行われている。	b 島民 n 大工	建築士j 設計 空調 ガス 水道 電気

図7 主な施工関係者と施工協力者の参加経緯